ある日の育児日記から (53)

佐藤　和代

有はもうすぐ三歳。この前、はじめて〝迷子〟を経験しました。

近くの公園で、何家族か集まって花見の宴会をしていた日。子どもたちはすぐに飽きて、あちこち走り回ります。有も、年上の子たちと一緒でした。ところが、急に圭だけ戻ってきて「有がいなくなった」と言うのです。「ちゃんとみてなきゃ！」なんて文句を言いつつ（子どもを放って酒盛りしていた我が身はしっかり棚上げ）探しに行きました。しかし、いない。全長二キロはある公園です。なかなか見つかりません。さすがにあせり始めた時、園内放送が。「ゆうくんという、四歳くらいの男の子が迷子になっています」あらら。事務所へ行くといましたいました、てれくさそうに笑っている有が。

やれやれ、圭は迷子なんてなったことがないから、油断してた。考えてみれば、圭はいつも私のあとを追っていたけど、有はどんどんひとりで歩いていって、私に追わせる子です。これは気をつけないと、迷子常習物になりそうよ。

さて次の日。保育園に行ったら、先生もお母さんたちも「きのう有くん、迷子呼び出しされてたね」と言って笑うのです。みんな行ってたのね、お花見…。